

中国のセクシャルマイノリティ支援 — IV

劉 強 (リュウ キョウ)

立命館大学大学院 人間科学研究科

前回まで

今回は、中国のセクシャルマイノリティの支援団体である“Trueself”で行われている活動内容の一つであるホットラインについて紹介しました。

ホットラインはホームページまたは公式アカウントなどから見つけることができ、それを通して相談することができます。基本的にはセクシャルマイノリティの子どもを持つ親であるボランティアが相談を受け付けますが、必要に応じて若手のセクシャルマイノリティであるボランティアに代わってもらうこともあります。相談者の多くはセクシャルマイノリティ本人または彼らの親であるが、相談内容の多くはカミングアウトに関する質問だったり、自己受容に関する質問だったりします。

今回は、この団体が実際に家族へカミングアウトを行なっている、あるいはこれから家族にカミングアウトを行おうとする人たちを対象に発行したカミングアウトをスムーズにできるように推し進めるハンドブックを紹介したいと思います。

当該プロジェクトのきっかけ

プロジェクト始動のきっかけは、支援団体のスタッフが書いた文書の中に答えがある。COVID-19の影響で、“Trueself”が以前から行なっているイベントやワークショップなどが全部中止することになり、支援の継続が難しくなっていました。そのような状況の中、専門家のアドバイスを受け、今までの実践で蓄積した経験をまとめることを決意したようです。

プロジェクトの進行

筆者は当該プロジェクトのスタッフの一人に詳しい話を伺ったところ、ハンドブックを作成すると決めたのが、2021年の1月頃でした。実現できるまでおおよそ半年ぐらいかかりました。その間、大量な文献調査や報告書をまとめたとともに、インタビュー調査及び1000以上のアンケート調査を行い、テーマを絞り出しました。さらに前回に紹介していたホットライン支援で感じた課題及び今までの支援経験でまとめた知恵を加え、ハンドブックのアイデアを創出しました。実際に仕上げた後、何度もテストをし、フィードバックを受けて修正を行い、第一版を完成させました。発売後、さらに使

ユーザーからのフィードバックに実際このハンドブックを使って家族へカミングアウトをしたユーザーへのインタビューを加えて修正し、第二版を完成させました。今回紹介するのは第一版のハンドブックです。

ハンドブックの内容

ハンドブックは手帳の形になっており、図のようなワンセットになっています。付随した形で、当該ハンドブックの使用説明書、レインボーカードというQ&Aの形式になっているカード、レインボーの絵柄のステッカーがついています。



ハンドブックには、各種情報も詳細に記載されていますが、カミングアウトを無理に推奨するようなことは書かれていません。カミングアウトするかどうかは当事者の自由であり、それぞれ置かれている状況が違うためよくアセスメントしてからカミングアウトを行うと良いというのが書かれており、支援団体の慎重さ及びカミングアウトという行為への態度が表れています。

このハンドブックでは、カミングアウトという行為を(1)自己統一感を高める、(2)家

族関係を促進する、(3)カミングアウトの経験を積む、(4)カミングアウトレターを用意する、(5)親の成長を見守る、という5つの段階で分け、30日間日記の形でそれぞれの段階で達成する目標を書いています。30日とはいえ必ずしも1ヶ月以内でカミングアウトしなければならないわけではなく、あくまで手順です。その中のいくつかを紹介します。例えば、1日目の場合、①なんで親にカミングアウトしたいのか、②カミングアウトの後の明るい未来についてイメージしたことがあるか、③その明るい未来のために努力する覚悟があるか、④今の心配事は何なのか、という4つの課題について考えるように促している。その下にメモを書く場所があり、考えたことを記入することができます。2日目では、自己統一感に関するセルフアセスメントになっており、簡単なアンケートが用意されています。解答後、自己採点できるため、自身の自己統一感がどの程度あるのかを確認できます。その下にQRコードがあり、スキャンすれば自己統一に関する内容の動画を閲覧できます。また、6日目ではカミングアウトできた友人へインタビューするように課題が課されており、インタビューの感想も書くように設定されています。このように、使用者の思考や行動を促すように課題と必要な知識を体系的に組み込まれており、カミングアウトする際の準備やその後の家族との付き合い方などを案内しています。

レインボーカード

レインボーカードは(1)自己統一、(2)交友、(3)パートナー、(4)家庭、(5)育児、(6)老後問題というセクシャルマイノリティ及びその家族が最も気になる話題の6つを網羅しています。カードはQ&A形式になっており、セクシャルマイノリティ本人向けのカードとセクシャルマイノリティの子を持つ親向けのカードと分けられています。50枚のカードを全て紹介することができないが、例としてそのうちの一つを紹介します。(5)育児において親向けのカードでは、セクシャルマイノリティに育てられた子どもはセクシャルマイノリティになりますか、という質問に対し、研究結果を引用しながら、同性の親に育てられた子どもの同性愛者である確率は異性愛者に育てられた子どもより高くありません、とはっきりと回答をしています。このカードは一人でも使用できますが、二人の場合、意見交換しながら使用することも可能です。さらに、大人数が参加するイベントでは一つの質問に対し、多くの人の意見を尋ねることが可能ですので、コミュニティ内部でも活用されているようです。

次回から

今回は簡単にハンドブックを紹介しましたが、紹介したハンドブックは第一版であり、現在はすでに第二版まで発行されました。次回では第二版の最新内容を取り入れて上記で紹介したカミングアウトという行

為の五段階では具体的にどのようなことをするか、またレインボーカードの六つの話題及びその関連内容などを紹介したいと思います。(続き)